

令和3年度 第1回スマートシティモデル事業等推進有識者委員会 議事概要

日 時：令和3年12月1日(水) 16:00～18:00

場 所：国土交通省6階局議室(Web併用)

【座長ご挨拶】

- スマートシティについて生活実感や、民間企業へのメリットが中々見えてこない面があり、スマートシティモデルプロジェクトで取組を進めている方々の生の声を伺い、議論することが重要だと思っている。本日は、委員・オブザーバー含め、積極的に議論していただきたい。

※資料に基づき説明がなされた後、下記の意見交換がなされた。

【意見交換】

- 災害時に使用するサービスの提供にあたっては、平時に使用するサービスからシームレスに使えることが重要である。
- 各地の実証実験の取組においては、専門家の知見を取り入れる体制をとることで、技術的障壁の予見や回避が可能となるだろう。
- 現状のモデル事業というスキームは永続的ではないと思うので、税財源も含めて今後の施策の方向性を検討すべきである。
- 今後の施策の検討にあたっては、防災・ロボット等、各分野に応じた支援スキームや、グリーンフィールドにおける BID の導入等についても検討すべきである。
- データを取得自体が目的となり、縦割りのしかデータを活用しないケースが増えている。それを防ぐためには、リーダーシップ体制が大事なのかもしれないと感じた。
- データの分野横断的な活用手法についても、ガイドブックに盛り込めるとよい。データ取得の目的とデータ規格でマトリクスに整理すると分かりやすいかもしれない。
- データの更新費用の確保は課題であり、データの公開・非公開、利用者の制限有無等とも併せて検討する必要がある。

- 今回は、各地域の取組内容を具体的にまとめているが、知見の横展開に向けては抽象化してまとめると良いのではないか。スマートシティ・ガイドブックだけでなく、スマートシティリファレンスアーキテクチャにも反映できる点もあるので、そこまで出来るとアーキテクト側の参考にもなるだろう。
- 先進事例の知見の共有に関しては、フォーマットを作成し、各地域のスマートシティ実施者がオンラインで取組内容を入力するなど、継続的に知見を共有・蓄積させる仕組みを作れると良い。
- スマートシティ・ガイドブックは、各論点について総論で解説しそれに対して、具体事例が付される形式となっているので、ぜひガイドブックの事例部分にも反映させ、充実させて欲しい。
- データ連係に関して MaaS の取組では、公的資金を取り入れている事業者にデータレポーティングを義務づけるという考え方もあり、スマートシティの取組でも参考になるだろう。
- 国土形成計画の改定に向けて、10万人程度で最低限の都市サービスが得られる地方生活圏域の具体検討を行う動きがあり、スマートシティは重要な観点となると思う。
- 費用負担の取組については、他の自治体が同じ取組を進められるように、背景や取組について詳細に記載してほしい。
- スマートシティの取組は先行投資であり、すぐに効果が見えにくい側面もある。なぜ実施する必要があるのかという関係者の疑問については、密なコミュニケーションにより解決する場合がある。